公益財団法人大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会
令和6年度事業報告書

1 全般概要

令和6年度は、年度事業計画に基づき広報誌の発行、大東亜戦争全戦没者合同慰霊祭の斎行等主要な事業を整齊と行うことができた。

(1) 戦没者慰霊事業

ア 戦没者慰霊の思想の普及

前年度に引き続き戦没者慰霊の思想普及のため広報活動に努めた。

(ア) 広報誌「慰霊」の発行

協議会広報誌「慰霊」を4月及び9月に1,400部、1月に1,500部、年間3回発行した。編集に際しては、戦没者慰霊思想の普及啓蒙を重視して、大東亜戦争に至る歴史的な経緯及び各戦場において日本軍将兵がいかによく戦ったかを紹介する等内容の充実に努めた。

頒布に当たっては、協議会参加諸団体及び会員に送付するほか、靖國神社、千鳥ヶ淵戦没者墓苑、偕行文庫等において一般参集者の自由な持ち帰りに供する等、頒布範囲の拡大に努めた。

(イ) ホームページの活用

大東亜戦争メモランダムを引き続き発信するほか、掲載内容を逐次更新して年間を通じ、内容改善に努めた。

(ウ) 洗心懇談会への参加

靖國神社の主催により年間10回開催される洗心懇談会に参加し、戦没者慰霊広報活動に関する情報交換を行った。

イ 大東亜戦争全戦没者合同慰霊祭の実施

令和6年7月6日(土)、靖國神社において協議会参加団体及び協力団体とともに、令和6年度大東亜戦争全戦没者合同慰霊祭を斎行した。

今年度は、首都圏所在の会員団体代表及び慰霊諸団体会員等計97名(令和5年度100名)が参列したほか、慰霊諸団体会員を含め賛助会員へ在宅参拝を広く呼びかけたところ会員等113名(令和5年度95名)が希望し、式典参列者と併せて210名(令和5年度195名)を参拝者名簿として祭文とともに奉納した。

ウ 永代神楽祭参列

令和6年4月28日(金)、靖國神社において斎行される永代神楽祭に役員が参列し、大東亜戦争全戦没者への慰霊の意を表した。

エ 慰霊諸団体の行う慰霊行事・活動への協力

前年に引き続き協議会参加団体を主体として慰霊諸団体が行う慰霊行事・活動に役員参加又は玉串料、供花、慰霊電報等を贈り、慰霊の意を表した。

オ 戦没者遺骨収集・帰還事業

(ア) 一般社団法人日本戦没者遺骨収集推進協会(以下、推進協会という。)に対する意見の提出

理事会等において所要の意見を提出し、要望等の反映に努めた。

(イ) 推進協会による戦没者遺骨収集・帰還事業への要員派遣についての協力

一般社団法人「日本戦没者遺骨収集推進協会」の事業として硫黄島収容派遣について第1次派遣～第4次派遣が計画され、第1次、第2次派遣が硫黄島の渇水により中止となったものの第3次派遣に2名、第4次派遣に1名を会員団体からの推薦を受け派遣し、66柱の帰還に寄与した。

(2) 戦没者慰霊に関連する事業

ア 協議会組織基盤

正会員団体数は、41個団体、特別会員団体数は12個団体である。

イ 協議会の運営基盤（財務基盤）の整備

会員団体の協力を得て各団体の広報誌等に賛助会員募集チラシの折り込みを依頼する等会員獲得のための努力を行ったものの賛助会員の新入会員は15名（昨年度23名）にとどまった。

年度末の賛助会員（賛助特別会員を含む。）は、477名（前年度末535名）であり、高齢・死亡による会員減少等について、対応の検討が必要である。（賛助特別会員は1名増加し7名である。）

(4) 財産管理運用

ア 基本財産の管理運用

基本財産20,001千円中、満期保有目的債権として国際金融公庫メキシコペソ建債権（円貨決済）にて17,841,551円を、残額を預貯金にて管理運用している。

イ 特定資産の管理運用

「慰霊事業安定化資金」として預貯金700万円を運用し、本年度は140万円を取り崩した。

ウ その他資産の管理運用

ソフトバンク発行の第5回社債及び第58回社債で計500万円（額面）で管理運用している

令和6年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書「事業報告書の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。